

避難所で助けてもらったこと

佐藤 優紀

十月二十三日、その時、地震が起こった。  
ゴゴゴゴ……。ものすごいゆれと音がほくたちを  
おそった。げんかんをこじあけて外に出た。  
弟とぼくのサンダルがごちゃごちゃになつた。  
そして、家の前で近くの人たちと固まっす  
おっすいた。地震が起きたのは、午後五時五六  
分、地震だと気づいた時は、ゆれた直後だっ

山古志小学校

た。外に出た時、半そでだった。とても  
寒かった。家の前にいたみんなは、ゆれるた  
びにオロオロしていた。ぼくは、いつまた地  
震がくるかとハラハラしていたし、家はくお  
れないかとどきどきしていた。ご飯は、自分  
たちだけ食べていた。他の人たちはご飯を食  
べていなかった。たので、大丈夫かなと思っ  
た。

それから二日かたった。自衛隊のヘリで避  
難した。大手高校にいった。それから、バス

に乗って、今朝白荘へ行った。食べ物はない、給  
 食みたいに配っていた。だから、大切に食べ  
 たいと思い、また、たいくつな時には、ボラ  
 ンティアの人々から遊んでもらったり、公園  
 にいっしょに行ったりしてもらい、とてもうれ  
 しかった。特に、ボランティアの人々から遊  
 んでもらったことは、心に残っている。ほん  
 とうに楽しかった。でも、登校の時、仲良く  
 していたボランティアの一人が避難所を出て  
 いっつらの時は、とてもかなしかった。

山古志小学校

ぼくは、ボランティアの人々のやさしさを  
 身にうけたので、困った人がいたら、ボ  
 ランティアの人達のように助けながら生きて  
 いきたい。